

令和7年度 第1回

小国町総合教育会議

会議録

小国町

令和7年度第1回小国町総合教育会議 会議録

1. 召集年月日 令和7年8月27日（水）

1. 召集の場所 おぐに町民センター301会議室（議場）

1. 開 会 午前10時00分

1. 閉 会 午後0時05分

1. 出席構成員

小国町長	渡邊 誠次 君
小国町教育委員	木下 勇児 君
小国町教育委員	時松 比佐代 君
小国町教育委員	高村 さつき 君
小国町教育委員	石松 愛子 君
小国町教育長	村上 悦郎 君

1. 欠席構成員 な し

1. 傍 聴 者 な し

1. 説明のために出席した職員の職氏名

小国中学校長	真嶋 剛 君
小国小学校長	杉本 敏也 君
総務課長	松本 徳幸 君
教育委員会事務局長	後藤 栄二 君
教育委員会事務局次長	中島 こず恵 君
教育委員会事務局学校教育係長	原山 慶士 君
教育委員会教育指導員	荒木 完二 君
教育委員会教育指導員	堺 昭博 君
総務課課長補佐	大蔵 将充 君
総務課総務係長	北里 仁尋 君

1. 会議内容 別紙「令和7年度第1回小国町総合教育会議次第」のとおり

会議の経過及び顛末

1. 開 会

事務局：大蔵総務課課長補佐

2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

3. 教育長挨拶

構成員：村上教育長より挨拶

4. 出席者紹介

別紙「令和7年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

5. 協議事項

構成員：渡邊町長が小国町総合教育会議設置要綱により議長となり、議事を進行する。

1) 第3次小国町教育大綱（案）について

1) 令和7年度「小国の教育改革プラン」について

2) 令和7年度の取り組みについて

村上教育長、真嶋小国中学校長、杉本小国小学校長が資料により説明

構成委員の意見

○ 石松委員

「助けて」と伝えることができる関係性づくり。自立の概念が「助けてと伝えることができる」というように変わってきている。学力充実タイムの時間に15分間、何をされているのかお聞かせ下さい。

○ 杉本校長先生

一人一人のソーシャルスキルトレーニングをしています。こういう場面の時に、どう伝えるか、どのようなやりとりをするかなど、コミュニケーションが上手くいくように集団の中で15分ぐらいで簡単にできます。例えば、好きな食べ物は何かという議題に5人1組となり、ただ言い合うのではなくて、相手が好きな食べ物を言う時は、必ず聴く人は頷きながら聴くとか、その人の顔を見ながら、会釈しながら聴くというようなルールがあって、話す人も話す前にみんながこっちを向いているか、そういう確認を行いながら始めていきます。いくつか項目がありますが、最後に振り返りということで、「さっき〇〇さんは好きな食べ物を□□って言ったんだけど、何で好きなの？」というような質問をすることで、話しをどんどん深めていくことを繰り返します。すると、子どもたちは話し合いの仕方が上手になっていきます。尚且つ、普段あまりしゃべらない子が、その中でよくしゃべるようになります。何でしゃべれるようになるかという、周りの人が聴く、聴く態度とといいますか、そういったことで具体的にスキルが高まっていきます。それを今度は授業の中で、具体的にやっていけるようになると思っています。毎週1回、学力充実の時間がありますので、10分から15分、必ずやっていきたい。これは前任校でもやっていましたけど、とてもいいです。子どもたちが授業の時に自然に話しができるようになっていきます。手を挙げてハイ、ハイ、ハイではなく、子どもたちの中できちんと話しができるようになっていくので、それを取り入れていこうと思っています。

○ 木下委員

働き方改革で残業時間が少しずつ減ってきています。中学校は既に数字的にも表れているところですが、実際には学校の先生の配置において、阿蘇郡内はどの学校もそうなんでしょうけども、小国もご多分に漏れず欠員状態、実際はもう少し配置されてもおかしくないのに配置されていないということは影響しているというふうに感じておられるかどうか。また、それに向けて教育委員会としても、県の教育委員会等に働きかけが必要ではないかと感じています。できれば自治体も一緒に連携して、もう少し広域的に阿蘇郡全体でも取り組みができないかなというふうに感じているところです。

もう一点、学校関係ではありませんが、昨年大イチョウの木の枝が折れて、先月は黒淵の鉾ノ宮の木が倒れましたが、町の文化財、国指定の文化財については、教育委員会の管轄になるので、文化財保護委員の方も含めたなかで、施設や指定木の定期的な点検が今後必要になってくるのではないかと感じています。点検には多少なり予算が必要になってくると思いますが、ぜひ前向きに検討いただければと思います。

○ 渡邊町長

木の点検等々は、既に打合せをしているところもあります。それから文化財の指定がなくても危ない箇所は当然出てきていますので、そういったところは予算配分も個人的な持分もありますので、林地安全等を活用しながらではありますが、できる限り危険が伴うところは優先順位を上げて対応するようにそれぞれで話しをしているような状況です。

また、下城の大イチョウについては、これまで教育委員会に対応していただいております。これからのことも含めて、もう一度地元と協議をしながら、しっかり取り組んでいきたいと思います。

○ 真嶋校長先生

中学校においては、今年、昨年と欠員はありませんが、2年前は欠員がある状況でした。阿蘇管内、それから県内も含めて、やっぱり大規模校になると欠員が4人、5人という状況もあるようで、人数はかなり厳しいという話は校長会の中で出てきます。やはり、人員はかなり大きな要素であると思っています。一昨年、欠員があった分、かなり無理があったなと感じているところです。欠員とは直接関係ありませんが、小国中は、初任又は3年再配と言いまして、3年経って本校に来る先生方の割合が非常に高く、ちょうど結婚したり、出産するという機会が多くあります。育児休業を当然取っていただきたいし、また育児時間というかたちで、男性も含めて、子供、家庭の時間を大事にしてもらう時間というのを設定してあります。それに関しても家庭をまず大事にして下さいということで話しをしているので、積極的に取ってもらっている状況ですが、やはりその分、誰かにその業務が来るという現状があるので、今の現状から考えると、プラスで小人数の加配であるとか、T Tの加配、児童支援加配など、いろいろなものがありますが、今その教員不足の中で、もう加配は無いものとして考えてもらいたいというようなことは言われているところがあって、そうするとどうしてもやっぱり人が足りない。人は足りないけど、やはり先生方の家庭の状況は最大限配慮したいという考えのなかで、本校では先生方が協力的なところもあり、遠慮せず休んでよかよとみんな言葉をかけてもらえるし、自分がその分をするからと声をかけていただいて回っているところではありますが、そこの負担が限界に来ないように、やはり人員の配置においては、難しいところではありますが、必要であると感じているところです。

○ 村上教育長

人員の配置ですが、中学校は予定された先生方が配置されています。小学校が教科推進で算数が3年、小国小学校に配置しますというところですが、実際は配置されていません。しかし、これは特別加配制度でありますので、未配置には上がらない人数になります。また、現在中学校では、不登校傾向にある生徒を支援学級の先生が自分の担任する生徒もいるなかで、一緒に見ていただいている現状があります。今それが無理をしてですが、たまたまできている状況です。できれば特別支援学級の先生は特別支援学級に専念し、不登校傾向にある生徒の指導には町から特別支援教育コーディネーターの配置を考えているところでもあります。また、県への要望というところでは、

配置予定から3年も続けて配置されていない現状の改善、産体育休後の配慮など、小規模な学校は厳しい現状があるということで、先日要望を出したところではあります。

文化財につきましては、昨日も小国ドームや周辺の桜の木が枯れているということで、職員と一緒に切りに行きました。30万円ほど予算はあるということでしたが、現状を見ると、危険であると判断できる支障木はたくさんあり、学校施設や体育施設で予算の確保が必要な状況であるということを教育委員会事務局で協議したところではあります。また、文化財保護委員だけでなく専門的な知識を持たれている方も含めて、点検や安全面などもありますので、検討が必要であると思っていますところではあります。

○ 時松委員

私のほうから、三点お聞きします。一点目は、中学校、小学校の両校長先生が言われたように、時代が激しく変わっているときだからこそ、子どもたちの言葉を大切に聴く、その聴くというのが、耳への聴く、心から聴くという字を使っていたので、本当にそのとおりだなと思いました。今年の1月だったと思いますが、国立成育医療研究センターのチームが分析結果を出していきまして、子どもの言葉を聞く、子どもの声を聞き、それを子どもに還元することが大事じゃないかと。日常の中で、様々な人から子どもの声を聞き取る。例えば、子どもが答えを話せるように質問をしてくれたり、確かめることをしてくれたり。答えや気持ちを伝えたとき、それを取り入れようとしてくれた、そういう大人のほうの受け取る側の気持ちまで子どもはもう感じ取っているんだなと、これを見て思いました。学校の先生や、家庭でそういうことをしてもらっている子どもは生活の質が高くなっていると分析結果が出ておりました。なので、中学校でアンケートを取っていただいたり、杉本校長先生が言われたように具体的なことがされていて、本当にうれしく感じています。

二点目ですが、学校公開日に行ってみると、低学年より高学年に眼鏡をかけている子が多い傾向にあるなというのを感じました。これには、いろいろな背景があると思いますが、目は大事だと思います。

三点目です。今年で戦後80年ですが、私は高校生のときに県立美術館に行って、宮崎静夫さんを初めて知りました。ハンセン病の絵を書かれていることを知って、こういう人が小国にいたんだとびっくりしたのを覚えています。坂本善三先生も世界の坂本先生ですが、宮崎静夫さんもここ何年も聞いていないので、取り上げてもらえたらと思っています。

最後に、この頃よく聞くのがスロースタート。大分県の臼杵市だったと思いますが、夏休み明けの5日間を午前中までとして、給食を食べて帰る。生活のリズムを整える目的であったり、暑い時間帯に下校とまらないような取り組みであったり、以前からやっているからではなくて、考えを変えていくと言われたとおり、いろんな取り組みがされているなと感じました。

○ 真嶋校長先生

ありがとうございました。大事な視点で、今四点ほどお話しをしていただきましたので、また、それぞれ活かしていきたいなと思います。最初の子どもたちの声を聴く、表情、その大切さというお話しがありましたけど、7年ほど前に岡山県の学校に視察

に行き、いろんな話を聞いてきた中で、前の話しにはなりますが、無表情の赤ちゃんが非常に増えてきているというお話がありました。なぜかという、スマートフォン等の普及によって、お母さんの笑顔や様々な表情を見ることが少なくなり、表情が分からない、感情を読み取ることができなくなっている子どもが非常に増えてきているということでした。小学校の取り組みを非常に素晴らしいなと思いながら聞かせていただきましたが、やはり幼少期からも含めて、幼保小中高連携して、大人が子どもたちと顔を突き合わせて声をかけたり、表情を見たりとか、そういうことがとても大事なことだなと思っているところです。

眼鏡のことですが、デジタル化が進むことは働き方改革や子どもたちの学力向上に非常に有効なことではありますが、どうしても視力の低下に繋がったり、眼球が縦長になってしまう傾向があるということも聞いておりますので、健康面に関しては学校保健会等と連携しながら進めていければいいなと思っています。

スロースタートに関してですが、小中学校ともに初日は午前中のみで昼食を食べて下校としていますが、先ほど村上教育長からお話しがあったように特例校で1,015プラス18時間ということで、かなり授業時数が多くなっております。冬の休校を踏まえると、既定時間よりもかなり多い時間の授業を行っている状況でしたが、働き方改革、子どもたちのゆとり等を考えたとき、必ずしも授業時間が多いからといって子どもたちに教育的な効果があるかという、それよりもゆっくりとした時間や先ほどの顔の見える時間など、そういう時間をしっかり取ったり、家庭でゆっくりする時間も含めて、今後データ等も検証し、検討していければと思っているところです。ありがとうございました。

○ 杉本校長先生

子どもたちの夏休みの印象に残っていることで、特に6年生は戦後80年が多くありました。やはり戦後80年を小国バージョン、小国を視点にして考えていかないと子どもたちは自分のものとして手繰り寄せることができないのではないかなと考えていたので、宮崎静夫さんの件は大変有難く思っています。

文科省の教育改革のなかに主体的・対話的な深い学びというものがありますが、実はこのなかで1番歴史が深いのは同和教育で70年やっています。なぜ主体的でなければいけないかという、主体的でないといろんなことが解決できない。自分が主体的にならないと、もう他人事となり人は動かないので、まず主体的にならないといけない。対話的というのは、こちらの考えを相手に押しつけるということではなくて、お互いに話しをしながら譲るところは譲り、押したり引いたりしつつ落としどころとか、最適な方向を見つけて円滑にやっていくということなんです。今世界では、ウクライナの問題やパレスチナの問題など、いろんな紛争が起きていますが、この問題に対して最適解がない状況です。学校は、最適解に行くように授業してきました。しかし、それではこれから先の変化が激しい時代、多様性が求められる時代に子どもたちは対応していけないという反省の中で、主体的・対話的な深い学びというものがあります。そういった意味で、その最適解を求めるのではなくて、やっぱりその隣の人とお互いに話しをしながら、押したり引いたりしつつ、お互いが落ち着くところを見

つけていくという力はこれから先求められるようになります。そこを絡めながら、戦後80年の小国バージョンの取り組みにおいても、子ども目線を中心に進めていきたいなと考えているところです。

○ 高村委員

小学校、中学校と素晴らしい取り組みを聞かせていただき、ありがとうございました。中学校の真嶋校長先生が言われましたが、無表情の子どもが増えてきているということで、私たちの時代は子どもを育てるときに携帯電話もありませんでしたが、今は子どもが泣くとお母さんたちがすぐスマートフォンを渡しているのをよく見かけます。携帯電話においては、小学生も自分で持っている子がたくさんいると思いますし、トラブル等もあるのではないかなと思いますが、そこをどう解決しているのかなど、あればお聞きしたいなと思います。

○ 真嶋校長先生

SNSに関するトラブルですが、小国に来て感じるのは、非常に少ないです。前任校等では本当に大変でした。いろんないじめ的な書き込みであったり、24時間で消えて証拠が残らないストーリーズに書き込んでいたり、写真の拡散など、非常に大変だった状況もありましたが、小国に来て、小国高校とも昨年いろいろとお話しをしましたが、やっぱり小国は少ないです。SNSの問題は、都会と地方で差はないのかなと思っていましたが、やはり子どもたちといますか、地域性でしょうか、保護者の方がしっかり見られていたり、繋がりがあのかないかなと思っています。その中でも、ちょっとしたことで自分が思ったことを書き込んでしまい、相手が嫌な思いをするというような事案があり、学校はそれが分かった時点で保護者に連絡を取りながら事実関係を確認して、保護者に来ていただいたり、また保護者に説明して対応したりというようなケースは少々あるかなとは思っています。学校としては、前任校でも保護者に伝えていましたが、携帯電話を持つのは自由ですけど、親として持たせる責任をしっかりと自覚をして持たせてくださいというのは必ず伝えてはいますし、基本的には、何かあったときは保護者に対応してもらいますと伝えてはいますが、学校内での友人間のトラブルというような状況になると、どうしても学校も入ったりする必要性が出てくるので、そこは子どもたちに寄り添いながら担任の先生に対応してもらっている状況があります。

○ 杉本校長先生

小学校は、私が今まで教員をする中で、スマホ等でトラブルになった経験はありません。私がここ最近苦労したのは、前任校ですが保護者の方が60人ぐらいだったので、LINEグループを作りました。そこに保護者の方が運動会等で撮った写真をどんどん上げるんです。そのような状況で、これはいかななものかとなりまして、PTAと一緒に取り扱い方といいますか、2年間かけてずっと協議をしました。結果、LINEグループには上げないことになりましたが、そのような個人的な情報に関しては取り扱いをとにかく考えないといけないということでやったところです。ただ、私も長男の子どもが東京にいますけど、この前ちょっと会いに行ったら、じいちゃんをYouTubeに出してよと言うんです。そういう時代だったなと思いながらも、

小学校の保護者も携帯電話とどう付き合っていくかを考えないといけない時代に来ていると思っています。私が自分の子どもに言ったのは、これは私が買って、契約して与えている物であって、私の物だからいつでも見られるからと言って渡したのを感じています。そのような具体的な取り組みを考えていけないなと思っていますところですよ。

○ 石松委員

小学校の学校公開日に合わせて、中学校のほうも突然お邪魔してすいません。学校を見させていただいて、先生方の授業の様子、子どもたちの様子、とても元気があるし、前のめりになって授業を聞いているクラスなどもあって、とてもいいなと感じました。ぜひ、たくさんの人にこの様子を見てもらえたらいいのになと思いますながら、いつも来ています。防犯面とかありますので、なかなか難しいのかなというのとも考えますけれども、学校公開日にお爺ちゃんやお婆ちゃん、授業参観になかなか来ることができない方も参加できたらいいなという気持ちもあります。みんな仕事をしているから難しいとは思いますが、たくさんの方に小学校、中学校の取り組みが分かってもらえたらなという気持ちです。

もう一つ、若い先生方が多いので、水俣のことを一緒に勉強しに行ったというのも、子どもたちにいろんなことを伝えていくうえで、とても大切なことで、一緒に校長先生も行かれたというのは、すてきなことだなと思って聞いておりました。先生方はやっぱりお給料面というよりも、やりがいだったり、この先生という仕事が好きだからと、そういう面がとても多いと思う仕事ですので、夜遅くまで大変なところもあると思いますけれども、頑張ってやっていただきたいなと思います。

○ 渡邊町長

ありがとうございます。町としても、本日は堺先生も技術の部分で見守っておられますけれども、熊本大学に職員を派遣しておりますし、コンソーシアムといいますか、小国高校のコーディネーターもおります。そういったかたちで予測をしながら熊本大学との連携であったり、小国町の小学校、中学校、高校で連携していくなかで、子どもたちにとって動きやすいような状況をつくるための配置というのは、少し早めではありますけれども間に合わないといけないので、配置をさせていただきながら、チャレンジをしているような状況もあります。

冒頭で私も挨拶させていただきましたように、時代の変化に合わせて、もうこれだけどんどん変わっているというところでもありますので、この会議も別に1回で終わらなくていいと思います。要請があれば教育委員会を通して言っていただいても構いませんし、様々なご意見、今日だけでないと思いますので、教育長にも先生方にも言っていただいて、教育長とは常日頃から協議をしておりますので、ぜひとも教育委員の皆様方には、今後とも御指導よろしくお願いしたいと思っています。

閉 会

事務局：大蔵総務課課長補佐

会議に使用した資料一覧

1. 令和7年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和7年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 第3次小国町教育大綱（案）
1. 小国町総合教育会議設置要綱
1. 説明資料（小国町教育長・小国中学校長・小国小学校長）